

USA発 最新クローラーを捕捉!

ラジコンワールド

# RC WORLD

No.158  
2009 February  
定価 680yen

2

興奮のバトルを  
完全収録

IFMAR 1/10電動ツーリングカー  
& 1/12電動レーシングカー  
世界選手権リポート

驚異の作り込みについてこれるか?

スーパースケール・ミニアックス



特集 冬のマシンメンテナンス

エキスパート流  
マシンリフレッシュ作戦

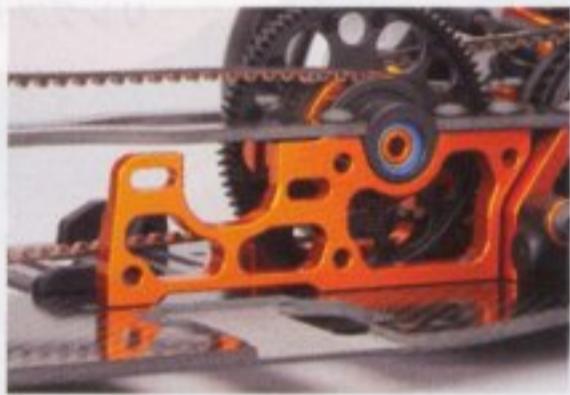
# XRAY T2 '009

## イメージカラーを一新 さらなる熟成もとまらない!

問い合わせ／セントラルアールシー phone 072-239-6565  
text / Y.Mitsuzono みつそのよしひさ photo / K.Shimada 島田健次



サスマウントはバルクヘッドとの間にスペーサーを挿入することにより、リアのト一角を自在に変更できる。



もはや芸術的ともいえる肉抜き加工が施されたモーターマウント。リアバルクヘッドとは分割されている。



"XRAY Quick-Saver" と名づけられるサーボホーンが、迅速かつ簡単にアッカーマン比の変更を可能にする。



'008より継承された頑丈な作りの足周りはクラッシュに強く、ユーザーからの評判も高い。標準装備のスタビライザーはリアの取り付け位置がサスアーム側で2箇所から選択可能など、セッティングの幅も非常に広い。



ゴミの侵入をシャットアウトするフルカバードのリアデフ。搭載したままのデフ調整も可能だ。



ブランレスシステムでの超ハイスピード走行でも安定した性能が発揮できるようにシャシーは極限までナロ化され、左右のバランスも徹底的に煮詰められた。

### L·P·O対応の次世代モデル

'06年にデビューしたXRAYのT2シリーズは、イヤーモデルとして'07、「08と毎年進化を続けてきた。そして、このたび、来るべき'09年へ向けたNEWモデル、「T2 '009」が発表された。

日本のみならず、世界各国で大ブレイクしたT2シリーズ。その最新作だけに、非常に気になっている読者も多いだろう。このモデルからアルマイトカラーが一新され、鮮やかなゴールドオレンジとなつたことに目を惹かれるが、細部をみると確実に進化を遂げていることがわかる。

'008では前後ブーリーに38Tが採用されていたが、'009になつて34Tに小径化されている。これにより偏芯カムによってデフの高さ変更がより効果的になつた。堅固な作りで定評のある足周りは'008を継承しているが、ユニバーサルを一新。軽量化されたアクスルにより、回転効率が向上し、それに組み合わせるスイングシャフトもアルミ製として、こ

ちらも軽量化がなされている。

また、'009では次世代のパワーソー



### 小径化されたデフの高さ変更で ロールセンター変更がより効果的に

従来モデルでもデフの高さによるロールセンターの変更は可能であったが、この'009よりブーリーが小径化（38T→34T）されたため、より効果的となった。ペアリングホルダーが偏芯しているため、これを回転させることで2種類の高さが選択できる構造が採用される。

T2 '008までのシックなクリアアルマイドから、見た目に映える鮮やかなゴールドオレンジへと大胆なイメージチェンジを果たしたT2 '009。



### Specification

全長	372mm
全幅	189mm（調整可能）
ホイールベース	256-261mm
重量	498g（全装備重量 1454g）
価格	8万1900円

大胆にボーンの受け部分を削り、大幅な軽量化を実現したアクスル。ボーンもハイパワーに耐えられるだけの太さに変更されている。



初回出荷ぶんのみフロント  
フランウェイが同梱される。  
これは日本のユーザーの志  
向を考慮しての国内のみの特典だ！

リアアップバーアーム  
取り付け位置は6箇所  
(フロントは4箇所)  
から選択可能だ。



### TOPIC!

#### アッパーデッキの追加装着で Li-Poバッテリーが搭載可能に！

アッパーデッキと前後のバルクヘッドの間に「グラファイトパッド」を挟み込むことにより、アッパーデッキが2.5mmもち上がり、ハイトの高いLi-Poバッテリーやバックバッテリーも搭載可能となる。単にスペーサーを挟むだけでは作業性が悪くなるだけでなく、シャシー剛性も変わって走行に支障をきたすため、このような別パーツが用意されているのだ。



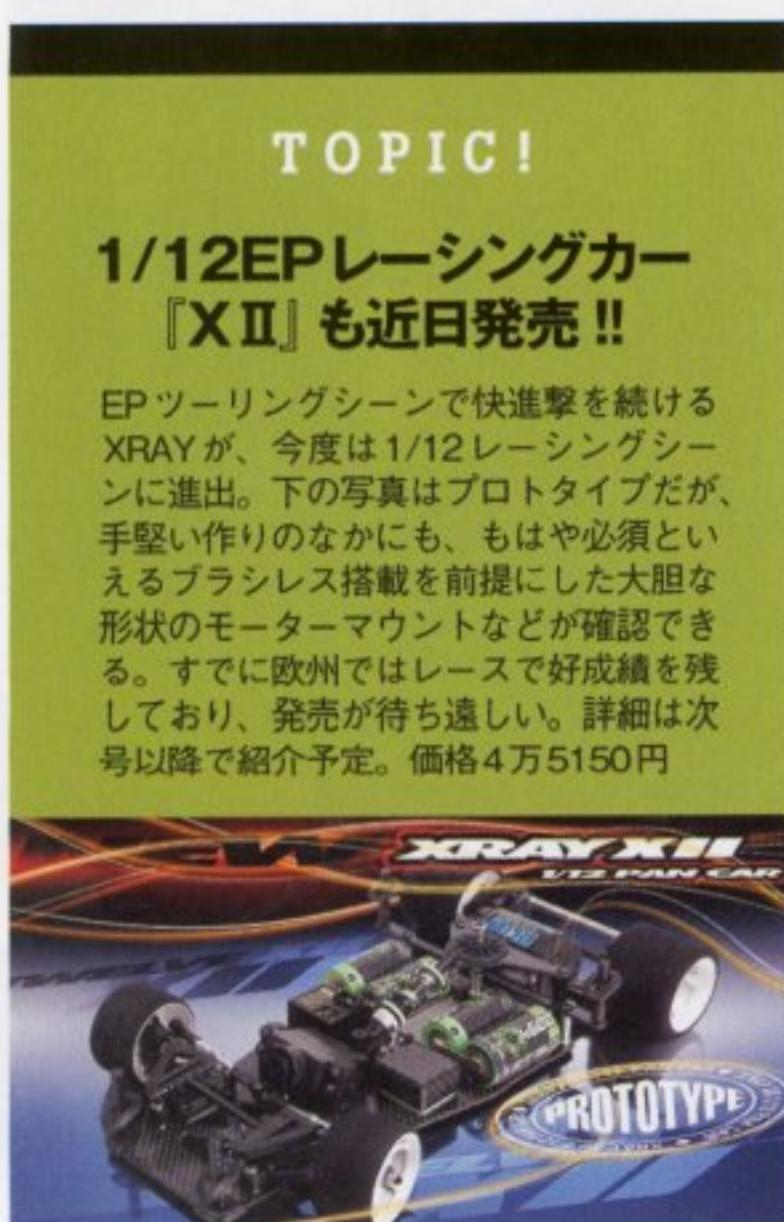
4、5、6セルに対応する無駄のない、スリムでかつ美しいデザインをもつメインシャシーは、'008を継承しつつも新たなデザインが採用される。

スであるLi-Poバッテリーの搭載にも対応する。それを可能にするのが「グラファイトパッド」の存在だ。このパッドをアッパーデッキとバルクヘッドの間に挟み込むことによって、アッパーデッキを2・5mm持ち上げることが可能になるのだ。今後のレースシーンでも主流となるであろうLi-Poバッテリーの搭載にまで気を配るあたりは、先進性をも盛り込んだデザインといえるだろう。

T2シリーズはレースで培ったノウハウや蓄積されたデータを基にモデルエンジしているだけあって、やみくもに仕様変更を行うのではなく、レンチひとつで変更可能なアッカーマン比やリアトル角など、従来モデルでも好評だった点はしっかりとそのまま受け継がれている。

初回出荷ぶんのみとなるが、フロントワゴンウェイも同梱されている。このワゴンウェイは、ピンを挿入することにより、ワゴンウェイ／リジットワゴンウェイ／スプリルに変更可能な、T2シリーズユーザーにはおなじみのシステムだ。

新たなイメージカラーを身にまとい、大幅な進化を果たしたT2 '009。'09年の電動ツーリングシーンに大旋風を巻き起こすことはまちがいないだろう！



### TOPIC!

#### 1/12EPレーシングカー 『XII』も近日発売 !!

EPツーリングシーンで快進撃を続けるXRAYが、今度は1/12レーシングシーンに進出。下の写真はプロトタイプだが、手堅い作りのなかにも、もはや必須といえるブラシレス搭載を前提にした大胆な形状のモーターマウントなどが確認できる。すでに欧州ではレースで好成績を残しており、発売が待ち遠しい。詳細は次号以降で紹介予定。価格4万5150円